会報

No. 30

平成5年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771－0069

わたしと図書館

株式会社川島織物
名誉会長
川島春雄

私が図書館なるものに関わったのは旧制中学の頃です。私は京都三中に五年間通ったのですが、そこに「歴史館」という建物がありました。京都は千年余の都だったところですから、その間の歴史に関わりのあるものが沢山あります。そういう資料を収納する場所、図書がある場所が「歴史館」でした。学校の授業が終わると、私は「歴史館」に入り、そこに集められた多くの資料や図書を見るのが楽しみでした。学校の中にそういうものがあったということは、今日の私に大変大きな影響を与えていると思います。

川島の出身は、富山県の城端です。合掌造りで有名な五箇山が近くにあり、そこでは養蚕が盛んでした。五箇山で出来た絹糸を使って城端で織物を織るのです。城端の織物は、先ず金沢に卸される。金沢から京都へ送られる。北陸のシルクロードです。私の曾祖父が城端から京都の室町に出てきたのは、今から百五十年程前です。初代は、「呉服悉皆屋」でした。古くなった着物をほどいて反物に戻す、湯のしにかけて板張りをして新しい織物に復活させる。その時に色を変えたり柄を新しくのせたりして、着物に仕立て直す。呉服の再生です。

二代目は、呉服・製造の道を選び西陣に小さいながらも工場組織で人を集めて製造を始めたのが明治十七年、今から約百年前のことです。

そして明治十九年から一年間ヨーロッパへ行っています。ヨーロッパの国々を歩いて、行く先々の織物を、自分の目で見て自分の手で触って研究してきたのです。そして、日本のつづれ織りでフランスのゴブランに負けないような美術織物を作ろうと決意したのでした。フランスのゴブランは当時世界一の美術工芸織物でした。そのゴブランに負けないような日本のつづれを作って、日本の絹が世界に評価されることを願ったのでした。二つ目に目指したのは、インテリアでした。いずれ日本も生活が洋風化して行くだろう。それに備えてインテリアというものを十分研究しておかなければならないと考えたのです。鹿鳴館建築当時のインテリアは、全て輸入品でしたが、明治宮殿建築の折りには日本人の手で日本のものを作るべきだということになりました。二代目は宮内省御用掛としてその生産を担当し西陣の織家を指揮し絢爛豪華なカーテン、壁張、椅子張、壁掛が出来上がったのです。日本のインテリアの出発です。

二代目がヨーロッパで見て感じて来たことが、今日の川島織物に結晶しているわけです。

三高の頃、私はスポーツに没頭して図書館とは余り縁の無い生活を送りましたが、織物の勉強に東大に入ると、勉強の場として図書館をよく利用しました。公共図書館ではなく大学図書館だからこういう利用もできたと思います。本当に静かな環境で皆一生懸命読んだり、文章を書いたり、瞑想に耽ったりということのできる場所でした。

本来図書館というものは、利用者のために必要なものは全て供給されなければなりません。

公共図書館の利用者は、一般市民であり、そういう人々が欲しているものは、一般教養だと思います。広く浅く、例えば時事問題にしても、国際情勢にしても、図書館に行ったら何でも教えて貰える、欲しい資料を自分で見つけられるという場所でなければならないと思います。（談）

図書館めぐり

京都市洛西図書館

より親しまれ、魅力ある図書館づくりをめざして

豊かな自然に恵まれ、四季折々の風情をたたえたここ洛西の地に、地域住民の期待を担って図書館がオープンしましたのは昭和六十三年四月二十日のことで、はや六年が経過しようとしております。

開設場所は京都市内の住宅地として最大規模の洛西ニュータウンの中心部に位置します洛西総合庁舎内に併設されており開館当初から住民の関心も深く、多くの来館者で賑わってまいりました。

図書館は庁舎内の一階部分にあり総面積五四六㎡、現在、蔵書冊数約五万八千冊、一日の貸出平均冊数は一千冊余、全貸出登録者の九五％が洛西地域の住民であり、地域にすっかり定着した図書館であることがいえます。

図書館資料はあらゆる図書館活動の基盤であります。日常において、蔵書等、資料・情報の内容充実、整備の努力は最重要課題ですが、公共図書館の果たす幾多の役割、その機能の一つに各種の催しや、行事等による学習の機会や場の提供があげられます。洛西図書館においても「お楽しみ会」「市民講座」「文芸展」「開館記念事業」など地域住民を中心に多くの方々のご協力のもとに実施してきているところです。

いずれにしましても「生涯学習の時代」の今日、図書館への期待が高まる中で、市民の立場からみて明るく親切で気軽に利用できる図書館づくりに励みたいと思っております。

心からの歓迎・心からの送りだしをモットーに。

ニュース・News

―地域に根ざす図書館へ―

宇治市東宇治図書館オープン

宇治市東宇治図書館
（東宇治コミュニティセンターの１階）

宇治市で初めての分館として、宇治市東宇治図書館が昨年の十一月十五日にオープンしました。場所は黄檗山万福寺のすぐ近くで、宇治市東宇治コミュニティセンターの一階です。中央図書館とのコンピューターのオンラインにより貸出券は中央館・分館・移動図書館共通で使えます。

開館時の蔵書は約二万冊でスタートし、二カ月後の現在貸出冊数は二万冊を越えました。分館は特に児童書の貸出が多く、子どもたちを対象にした事業も今後いろいろと取り組んでいく計画をしています。

コミュニティセンターで何か行事や事業があると、図書館はたちまちにぎやかになります。料理講習会に来た人が料理の本を借りに来たり、催しに参加する人が雑誌を見ながら待ち合わせをしたりするのも、複合施設ならではの光景です。また、会社や地域で何か調べる必要が起こって図書館に来られたり、近くの小・中学生は宿題やレポートのための本をさがしにきます。「中央図書館へ行くには少し遠くて……」という若いお母さんや、「本を読むのが何よりの楽しみです。」とおっしゃるおじいさんなど、顔なじみの方が増えています。

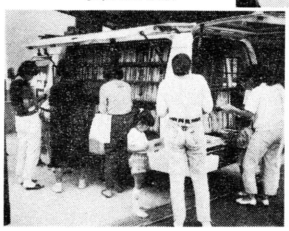
東宇治図書館は、地域に根ざしたサービスを通して東宇治の生涯学習の拠点となれるよう頑張っていきたいと考えています。

心のふれあう 移動図書館「うぐいす号」

福知山市立図書館

福知山市立図書館では、全域サービスを目標に昭和五二年から移動図書館車を運行しています。最初の車は普通ライトバンで、約三〇冊の本をいれた専用の木箱を一〇箱程積み巡回していましたが、各ステーションでの積み降ろしが大変でした。

二台目は、五七年に三方開きの中古ワゴン車の寄贈を受け、三方のドアの所に書架を取り付け、約六〇〇冊を載せた専用車で巡回していましたが、一昨年の夏頃から故障が多くなっていました。



貸出風景

平成四年度の予算で、ようやく新車を購入することができ昨年の九月から運行しています。タイプは二台目とほぼ同じですが左側面ドアが全面開放となり、積載冊数も八五〇冊と増えました。現在三六ケ所のステーションを月一回のペースで巡回しています。火・木曜日の午前中に巡回するため、利用者はほとんどが幼児と親・お年寄りです。時間の都合で小・中学生の利用が少ないのが残念です。特に、交通手段が限られ本館から離れた地域のお年寄りの方々が移動図書館を心待ちにされています。毎月、手作りのおやつを作ってくださる方、家で採れた野菜や果物、花をくださる方、お茶を入れていただいてつい長話をしたり、また暫く見えないと病気ではないかと気になったりと、本館では味わえない〝ふれあい〟がそこにあります。そうした人達にとって「移動図書館」はまさに生活の一部なんだと思います。

一部では、移動図書館の時代は終わったと言われていますが、過疎地帯を持つ本市のような地域では移動図書館車は不可欠のものだと思います。

『いつでも、どこでも、誰でも』が利用できる全域サービスを目標に頑張っています。四人の職員でやりくりしていますので行き届いたサービスとはいえませんが、市民に役立つ身近な図書館となるために頑張ります。

ニュース・News

バーバパパの図書館車 発車オーライ！

精華町立図書館

図書館設立十五周年を記念して、移動図書館「あおぞら号」が新しく生まれ変わりました。

車体には、世界の子ども達に人気のあるバーバパパ一家が描かれています。

絵本バーバパパは、地球環境や自然の大切さ、やさしさなどが謳われており、21世紀の都市づくりをめざす本町としてもふさわしいということで採用されました。

著者のティラー夫妻は、「国際文化都市で知られる京都の子ども達に親しんでもらえるのはうれしい。是非協力します。」と車体に描くことを快く承諾してくださいました。車内は冷暖房完備・内架式で二五〇〇冊が積載できます。

人口増加に伴い、新興住宅地や遠隔地住民からの要望も高まり、従来の十ケ所から町内二十四ケ所（一自治会一ステーション）を巡回することになりました。

毎週火曜日から金曜日の午後、各五十分間駐車し月二回巡回しています。貸出冊数も一挙に三倍に増え、新興住宅地や、子どもの下校時間帯の地域では車内が満員の盛況ぶりです。

〝森の小人〟のメロディを聞き、息はずませて走ってくる子、「楽しみが増えました。」と雨の日でも待っていてくださるお年寄り達を見ると、貸出しにも一層力が入ります。

バーバパパの移動図書館車は、だれにでも愛される動く図書館として今日も人と本との出会いを求めて走ります。

©Annette Tison and Talus Taylor.
バーバパパたびにでる
（講談社）より

専門委員会ニュース

〔相互協力委員会〕

相互協力委員会は、去る11月25日に平成４年度第１回委員会を開催し、平成４・５年度の事業について協議しました。

その結果、すでに総会で確認された、相互協力活動の一層の推進と担当者会議の開催に併せ、各加盟館で日常的に活用されている「雑誌・新聞総合目録」の改訂版を平成５年度に発行することとしました。

「雑誌・新聞総合目録」は、現在の目録をワープロに入力し、平成５年度に各館の協力を得て調査を行い、その結果に基づいて改訂版を発行する予定です。

担当者会議は、平成５年２月26日(金)に、本年度から、資料の相互貸借実施承諾館に図書資料の貸出をしていただくことになった府立総合資料館を会場に開催しました。会議は、「雑誌・新聞総合目録」改訂版作成に向けての共通理解。

向日市、八幡市の相互協力の実態報告を受け交流協議を行い、相互協力活動の推進を確認しあいました。会議の後、資料館職員の方の案内で館内を見学しました。

また、「ＦＡＸ版ＷＡＮＴＥＤ」についても、話題になっています。

（相互協力委員会　森　善之）

〔研修研究委員会〕

☆児童奉仕グループ

『子どもの人口の推移と子どもの図書館利用（登録者）を数値から分析すると

京図協・京庫連交流研究会』

日程　平成５年２月25日(木)
　　午前10時30分～12時

場所　宇治市東宇治図書館

「図書館を利用する子どもの数が減っている。貸出冊数が減少している。」ことは、ほとんどの図書館で数年前から現象として言われています。そして、そのことは子ども人口の減少が直接の原因ではないか……子どもひとり当たりの貸出冊数は決して減っているわけではないという見方があります。

果たしてそうなのか。

実数をもって検証した方がいいのではないか。そこで、サンプル館にご協力いただいて分析してみました。

『ヤングアダルトサービスの研究　府内各図書館のサービス実態とこれからの方向をさぐる』

日程　平成５年３月26日（金）
　　午後１時30分～４時

場所　京都市青少年活動センター

☆電算研究グループ

『公共図書館のコンピュータ導入について』

講師　宇治市中央図書館
　　館長　石沢　誠司氏

日程　平成５年３月４日(木)

場所　宇治市中央図書館

〔広報委員会〕

新春の一日、京都市北郊の市原に川島織物名誉会長・川島春雄氏をお訪ねしました。ご多忙の中、お時間を頂きましたことを感謝致します。

近公図奉仕部門の研修会に参加し図書館事務の電算化、書誌データの外注化が進む今日、図書館職員に求められているものは何かを改めて考えさせられました。

図書館に関する情報、会報に対するご意見などお寄せください。

広報委員会　田中幸枝

京都大学付属図書館の図書館貸出サービス

（公共図書館での利用）

京都図書館大会の配布資料や当日の発言などから、学外の市民の各大学付属図書館の利用について認識を新たにしたところです。

京都大学付属図書館を訪ねその詳細を伺いましたので、お知らせします。

★対　　象
　公立図書館
（近畿地区を除く）
　ただし、最近では京都市以外の府下の図書館の利用に応じるようにしている。

★貸出資料
　本館所蔵資料のみ
　貴重書、開架中の図書、発行後５年を経過しない図書などは貸出さない。

★申込方法
　郵送・ＦＡＸ

★図書送達通信経費
　依頼館の負担

★取り扱い事務
　情報サービス課
　相互利用掛

★閲覧利用
　館長の紹介状により希望する図書のみ閲覧できる。

相互利用掛（担当者１名）の年間１万件を越える処理件数、閲覧席などの現状から、これ以上のサービスは、なかなかのようでした。

（京都図書館大会
　実行委員　村上敏明）